

令和5(2023)年度

金沢大学

Community learning "Future Design" Program

未来デザインプラクティス

～自分と未来は変えられる!～

学長と一緒に
参加!

報告書



目 次

はじめに	1
プロジェクト（授業）概要	
目的	2
各プラクティススケジュール	3
各プラクティス参加状況	3
各プラクティス企画一覧	3
事前講義	4
地域での学び（日帰り）	10
五箇山	10
珠洲	13
能登	16
学生レポート	19
学生によるアンケート調査・結果	22
ご協力いただいた皆様	28

はじめに

令和6（2024）年1月1日に発生した令和6年能登半島地震につきまして、これまでプロジェクト発表会でご支援頂いた皆様のなかには、被災された方々やそのご家族の方々もいらっしゃるかと思います。犠牲となられた方々に深く哀悼の意を表するとともに、負傷された方、被災された方、そのご家族及び関係の方々に心よりお見舞いを申し上げます。

金沢大学は、加賀藩彦三種痘所を源流とし、旧制第四高等学校などの前身校から継承した160年余の歴史を有する総合大学です。その大学憲章においては、「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」を基本理念に掲げ、長い伝統と最先端の教育の融合を通じて育成する人材の具体的な姿を「金沢大学＜グローバル＞スタンダード（KUGS）」として定めています。

この人材像のもと、学生たちが、未来の課題を探求しその克服に貢献する知恵、さらには未来の価値を生み新しい社会を創造するための知恵である「未来知」を修得できるような教育環境を整え、あるべき社会を先導する力を持った「金沢大学ブランド人材」として輩出することが、本学の社会に対する役割であると考えています。

この「未来知」の創造には、その根本的な基盤として、自分たちが生きる未来を思い描く力が重要です。地域に暮らす当事者としての意識を持ちながらグローバルな課題や地域課題を捉え、どのような社会を目指し問題を解決していくのか、あるいは、その社会に暮らす人々の幸福のためにどのような価値を生み出していくのか、一言で言えば“未来をデザイン”する力が大切だと考えています。

令和4（2022）年度から開講された授業『未来デザインプラクティス』は、学生自身が“未来をデザイン”する力を養うための“プラクティス（練習・実践）”を目的とする実践的な科目です。この授業で学生たちは、自身とは異なる専門性や強みを持つ他の学生や本学の若手職員とグループを作り、自分たちで大学の未来をデザインし、自らのプロジェクトを企画・実施することに挑戦しています。「自分と未来は変えられる！」というテーマのもと、学内外の多くの方々の助けを借りて、プロジェクト実現のために様々な課題にアプローチしながら、自分たちの思い描く理想の社会を形成する力を磨いています。

学生グループのプロジェクトについては、毎年、近隣の市町を訪問させていただき、そこで、発表会を実施しています。他のグループの特色あるプロジェクト発表を聴くことに加えて、市町の多くの皆様から多大なご協力とご支援のもと、地域の特色や課題などについて意見交換する機会もご提供いただいております。学生にとっても貴重な学びの場となっています。ここに令和5（2023）年度の『未来デザインプラクティス』の報告書として、学生たちが企画したプロジェクトの内容や成果についてまとめました。本学の教育理念に基づく特色ある教育プログラムへのご理解を賜り、学生たちの高い意欲と成長をご覧いただければ幸いです。

末筆ながら、被害を受けられた皆様が一日も早く平穏な日常生活に復することをお祈り申し上げます。

プロジェクト（授業）概要

○目的

令和4（2022）年度から和田学長のもと実施しているプロジェクト（授業）です。学生は3つの地域、五箇山・珠洲・能登のうち1つに赴いて”Practice”（練習・実践）として、金沢大学の学生が参加できるプロジェクトやイベントを企画し提案することを主題とした授業に参加します。各Practiceで選出されたグループが”Finals”として白山での最終成果報告会に参加します。こうした各グループでのプロジェクトに若手担当職員も事前講義から参画してアイデアを出し合うというプロジェクトです。

令和5（2023）年度は白山での報告会を能登半島地震の影響によりレポート提出に変更しました。

《金沢大学 Web 版シラバスより》

令和5（2023）年度共通教育科目「未来デザインプラクティス」（授業担当教員 国際機構 佐藤 智哉 准教授）

授業の主題

「自分と未来は変えられる！」

将来、皆さんは、地球温暖化などの全世界的な課題を解決するためのプロジェクトや、あるいは、地域をより良くするための様々な取り組みに参加することになります。自ら自分たちの”未来をデザイン”し、効果的なプロジェクトを企画し、チームのリーダーやメンバーに提案（プレゼン）し、様々な背景を持つ仲間とコミュニケーションを取りながら、その実現に向けて進んでいくというわけです。この授業は、その”プラクティス”（練習・実践）として、金沢大学の学生が参加できるプロジェクトやイベントを企画し提案することを主題とします。具体的には、1チーム3～4人の構成で1つの企画をまとめ上げ、その成果を学長が参加する報告会で発表することが主課題となります。

授業の目標

この授業では主に、以下の5つの能力を磨くことを目標とします。

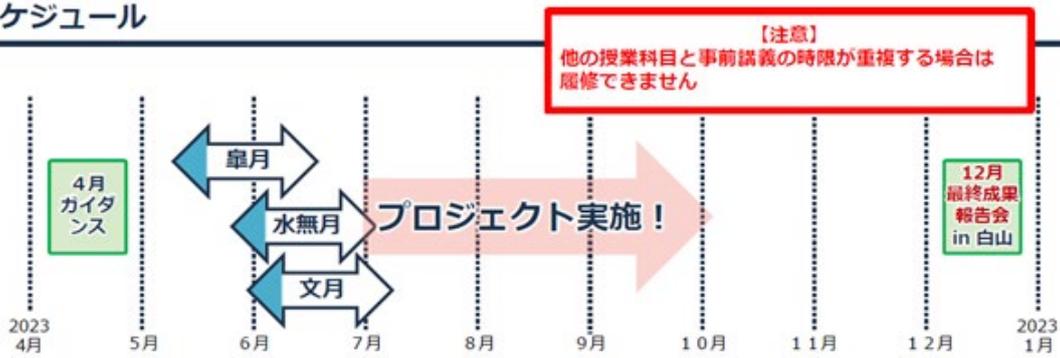
- (1) 独創的なアイデアを用いながらも、実行可能なプロジェクトを企画する能力
- (2) チームのメンバーと目的やアイデアを共有しながらプロジェクトを推進するためのコミュニケーション能力
- (3) プロジェクトを魅力あるものとして提示するプレゼンテーション能力
- (4) チームにおける自身の役割を認識しながら、主体的にプロジェクトに関わっていく能力
- (5) プロジェクトの当事者でありながらも、その意義や重要性を第三者視点から俯瞰的に捉えることができる能力

授業の概要

この授業は、5回の講義、プロジェクト報告会で構成されます。5回の講義では、プロジェクトの立案・実施のために、グループワークを中心としたアクティビティーを実施します。プロジェクト報告会には参加費（食費等の実費）が必要です。

○各プラクティススケジュール

スケジュール



First	Prctice 01 皐月	Prctice 02 水無月	Prctice 03 文月
ガイダンス	4/13(木)16:45～[A1講義室] or 4/14(金)12:15～[A1講義室] <small>※どちらかのガイダンスを受講してください。詳細について説明します。</small>		
事前講義① 5限	5/ 9(火) [B3講義室]	5/18(木) [B3講義室]	5/24(水) [B9講義室]
事前講義② 5限	5/16(火) [B3講義室]	5/25(木) [B3講義室]	6/14(水) [B9講義室]
事前講義③ 5限	5/23(火) [B3講義室]	6/15(木) [B3講義室]	6/21(水) [B9講義室]
事前講義④ 5限	6/13(火) [B3講義室]	6/29(木) [B3講義室]	7/ 5(水) [B9講義室]
事前講義⑤ 5限	6/20(火) [B3講義室]	7/ 6(木) [B3講義室]	7/12(水) [B9講義室]
地域での学び(日帰り)	〔五箇山〕 6/4(日)	〔珠洲〕 6/25(日)	〔能登〕 7/2(日)

○各プラクティス参加状況

区分	実施日	実施場所	学生人数	教職員人数	合計
皐月	6月 4日 (日)	五箇山	11	13	24
水無月	6月 25日 (日)	珠洲	18	14	32
文月	7月 2日 (日)	能登	19	21	40
Final	中止 (代替措置)				

○各プラクティス企画一覧

PRARC	企 画
皐月・五箇山 A	「金大マイボトル普及大作戦：ペットボトルの使用削減を目指して」
皐月・五箇山 B	「みるみるグローバルプロジェクト：金沢大学の多様性を可視化する」
皐月・五箇山 C	「G7 グルメセブン：料理を作って留学生と国際交流」
水無月・珠洲 A	「ちっと CHAT：学生と教職員の気軽にトーク会」
水無月・珠洲 B	「あきけん：空きコマ教室検索機能システムの開発の提案」
水無月・珠洲 C	「100年後も輝く金沢大学：学長のフォトモザイクを作ろう」
水無月・珠洲 D	「世界で光り輝く金沢大学へ！：イルミネーションアートで彩りを」
水無月・珠洲 E	「ナイデアソン：ナイスアイデアで大学にイノベーションを巻き起こそう」
水無月・珠洲 F	「金大ランチスタンプラリー：学食巡って特典 GET」
文月・能登 A	「学食を変えよう：テイクアウト予約アプリ開発の提案」
文月・能登 B	「夜活 WEEK：学食メニューの予約制：小腹満たして図書館で夜勉」
文月・能登 C	「パラソル付きテラス！：屋外ベンチで中庭ランチ」
文月・能登 D	「地下通路の国際メイクアップ：国旗のアンプレラスカイで通路を明るく」
文月・能登 E	「大学で模擬留学体験：留学生と一緒に角間の里で料理づくり」
文月・能登 F	「金大ラジオ：学内イベントをラジオで発信」

Community learning "Future Design" Program
未来デザインプラクティス
～自分と未来は変えられる!～

第 1 回

1

“未来”を“デザイン”する“プラクティス（練習）”

自分の未来



地域の未来
日本の未来
世界の未来



<https://pixabay.com/ja/photos/%e6%b0%97%e5%80%99%e5%a4%89%e5%8c%96%e3%81%99%e3%82%8b%e5%b9%b2%e3%81%b0%e3%81%96%92%b0%e5%a2%88%03%653/>



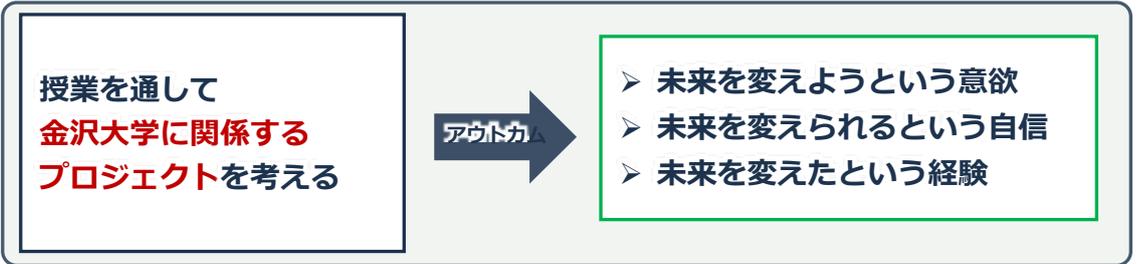
https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Rainbow_flag_and_blue_skies.jpg



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Artificial_Intelligence_AI_Machine_Learning_-_30212411048.jpg



<https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdg/about/>



授業スケジュール（事前講義x3回 ⇒ 発表会 ⇒ 事後講義x2回）

五箇山に行きます！

3回の事前講義にて

- 課題やポイントの認識
- アイデア出し
- チーム作り
- プロジェクトの立案
- 発表の準備 など

成果発表会

【事前講義 1】 **気づく**

- 「金沢大学はどんな大学？」
- プロジェクトの種はすでにキャンパスにある！

【事後講義 4】 **形る**

- “A plan is just a plan”
- 実現可能なプロジェクトにするために ⇒ “修正” & “変更” も必要

【事前講義 2】 **練る**

- プロジェクトのアイデアを出し合う
- それぞれのアイデアを検討・吟味する

【事後講義 5】 **磨く**

- The ^{last} step is the hardest
- なんとかする！

【事前講義 3】 **創る**

- “商品（アイデア）”をどのように売り込むか
- プレゼン資料の構成（効果的な発表とは）

**プロジェクト
実施**



- 「金沢大学って、こういう大学だよな」
 - 「金沢大学を、もっとこうしていきたいよね」
- という、思い・気持ち・考えが、背景にあるようなプロジェクトやイベント



**自分たちの大学は
自分たちでつくる**

プロジェクトのファーストステップ

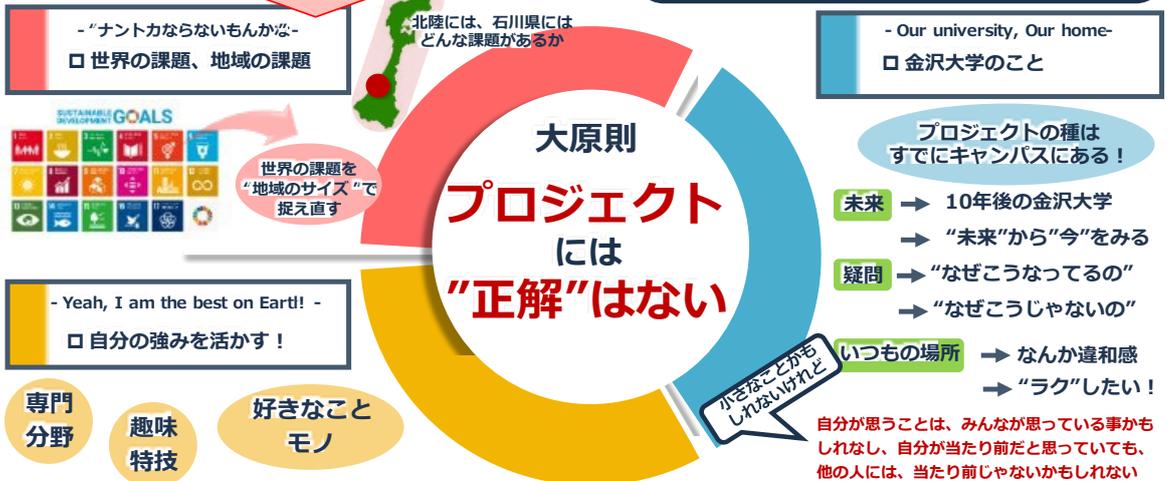
プロジェクトの素案を考える

- 細かい点はおいておいて、リズムよく
- 携帯で調べてもよし

頭の片隅に

- 「金沢大学って、こういう大学だよな」
 - 「金沢大学を、もっとこうしていきたいよね」
- という、思い・気持ち・考えが、背景にあるようなプロジェクトやイベント

アイデアの源泉の例



グループA



➢ 地域の方々や近隣の小学校の生徒などに大学を開放し、様々な活動を通して交流をはかる

グループB



フラワーアート



➢ 金沢大学の広大な敷地を活用してフラワーアートを作成し、人々の交流を促進し大学を活気づける

グループC



➢ 移動販売形式で様々な飲食店を誘致し、学生の食生活の充実やキャンパスの活性化につなげる

グループD



➢ 海外に対する関心や友達作りを目的として、留学生と世界各国の料理を作る異文化交流会を開催する

グループE



➢ 留学生と一緒にお菓子を作るイベントを開催し、多様な背景を持つ生徒同士の交流機会を増やす

グループF



➢ 国際性が視覚的にもわかるように国旗を飾り付け、留学生が穏やかな気持ちで過ごせる環境を作る

グループA 優秀賞!



プロジェクトの内容
プロジェクトの内容



➢ 朝の活動を習慣化するためのきっかけとして、珈琲などを無料で提供するイベントを開催する

グループB



大学生×小学生



➢ 宝町付近の小学生や留学生などの交流イベントを開催し、地域の人々との交流をはかる

グループC




➢ 雨が多い金沢において、忘れ物の傘をアート作品として飾り付けることでキャンパスを活気づける

グループD



プロジェクトの内容



➢ 仮眠スペースを設置し、空きコマなどで活用してもらい、学生がより授業に集中できる環境を作る

グループE



具体的な提案



➢ 学生が自身の専門分野を教えるイベントを開催し、学生同士の知識の融合を促進する

グループF



マッチングプロジェクト



➢ アプリを使ったマッチングサービスを開発し、学類間や異文化間の学生交流機会を増やす

グループA



▶ 多様な価値観を持つ学生が集まり
共同で作品を作るワークショップ
形式のイベントを開催する

グループB



▶ 若手職員の方や学長とのザツダン
イベントを開催し、学域や教職員
の枠を超えたつながりを創出する

グループC



▶ 心と身体のリニアフリーの理解を
深めることを目的としたワーク
ショップイベントを開催する

地域での学び

詳細スケジュール

○五箇山 6月4日(日)

8:20	参加者集合（金沢大学事務局前玄関・若松・旭町）
8:30～ （学生迎え）	8:30 事務局前出発（大学大型バス） →8:33 若松乗車 （酒のやまや側のバス停辺り：Vドラックもりの里店向かい） →8:40 旭町乗車 （金沢メモリアルホール側の歩道：北國銀行旭町支店向かい）
10:00	相倉合掌造り集落着
	移動（徒歩）→ 展望台
10:10～10:15	展望台にて集合写真
	移動（徒歩）→ 民宿勇助
10:25～11:15	五箇山の暮らし・見学
	移動（徒歩）→ 五箇山セミナーハウス
11:30～12:00	岩本真佐美 様（南砺市市民協働部部長） 講義
12:00～13:00	昼食・若手職員によるランチオンセミナー
	移動（バス）→ こきりこ館
13:10～14:40	ささら編み体験
	移動（バス）→ タカンボースキー場ふれあいハウス
15:00～15:30	山下貴弘特任助教 講義
15:30～16:00	和田隆志学長 講義
16:00～17:30	発表・審査・講評
17:30～ （学生送り）	ふれあいハウス（タカンボースキー場）出発（大学大型バス） →若松降車 （酒のやまや側のバス停辺り：Vドラックもりの里店向かい） →旭町降車 （金沢メモリアルホール側の歩道：北國銀行旭町支店向かい）

「未来デザインプラクティス『皐月（五箇山）』」の成果報告会を開催

6月4日、共通教育科目「未来デザインプラクティス/皐月（五箇山）」を富山県南砺市・五箇山で行い、学生11名、教職員13名が参加しました。この科目は、「自分と未来は変えられる！」をテーマに、令和4年度からスタートしたものです。自分たちの“未来をデザイン”し、さまざまな背景・専門性を持つ仲間とコミュニケーションを取りながら、その実現に向けて進んでいく、その“プラクティス（練習・実践）”として、学生が参加できるプロジェクトやイベントを企画し提案することを主題としています。

地域での学びの当日は、まず五箇山の相倉合掌造り集落を訪問し、民宿勇助にて五箇山での伝統的な暮らしについて理解を深めました。その後、同集落内の金沢大学五箇山セミナーハウスへ移動し、南砺市の岩本真佐美市民協働部長から「世界に誇れる『一流の田舎』を目指す」と題した講義があり、地域の特徴を活かしながら課題にアプローチするさまざまな取り組みについて学びました。

また、お昼の休憩時間には、若手職員によるランチョンセミナーが行われ、若手職員からおすすめの本についての紹介がありました。午後からは、こきりこ館へ移り、ささら編みや日本最古の民謡「こきりこ節」の踊りを体験しました。

その後、タカンボースキー場のふれあいハウスへと移動し、和田隆志学長から「本・歴史から先人の知恵を学び、想う」と題した講義、教学マネジメントセンターの山下貴弘特任助教から「自分と未来は変えられる 過去と他者を変える方法」と題した講義がありました。

講義の後は、3つの学生グループから「金沢大学の未来を自分たちでデザインしていこう」というテーマに沿って、これまで構想してきた企画の発表がありました。今後は、企画したプロジェクトをさらにブラッシュアップしながら、その実現に向けて活動を続けていきます。



相倉合掌造り集落での集合写真



こきりこ節の踊り体験



和田学長による講義



学生のプロジェクト発表・講評

グループA **実施**



マイボトル普及大作戦とは？

金沢大学では一日に約
500本のペットボトルが購入されている

▶ ドリンクバーの設置
▶ 自動洗浄機の設置

金沢大学 KANAZAWA × SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

➢ 環境を考えプラスチック資源の削減を目的として、マイボトルの活用を普及させる

グループB **実施**

みるみるグローバルプロジェクト
～金沢大学の多様性を可視化し、出会い・繋がるプロジェクト～

「見る（動画）」×「みるみる（動画）」

- ・世界地図で金沢大学の国際性・多様性を見える化
- ・皆の夢や考えを見ることで自分の将来を見つけるきっかけに
- ・みるみるうちに、金大生がグローバルになっていく

プロジェクト概要

世界地図・日本地図 + 掲示板 + オープンチャット

Before I die... + ...

可視化 出会い 繋がり

➢ 様々なバックグラウンドをもつ金沢大学生の多様性を可視化して、出会う・繋がるの機会を作る

グループC **実施**



G7とは

料理体験×文化交流
～五感を刺激する～

名前の由来は...2023年のG7の教育大臣会合が金沢大学で行われたこと

ただ話だけで仲良くなれる？
一緒に作業をして一緒にご飯を食べることで一緒に達成感を味わえる！

➢ 留学生と日本人学生が、自国の料理を作りながら、そして一緒に食べながら、文化交流をはかる

○珠洲 6月25日(日)

7:50~	参加者集合（金沢大学事務局前玄関・若松・旭町）
8:00~ （学生迎え）	事務局前出発（大型バス） 若松乗車（酒のやまや側のバス停辺り） →旭町乗車（ファミリーマート金沢旭町三丁目店側歩道）
8:45	のと里山海道 高松 SA（金沢駅集合の学生と合流）
9:00~11:00	（バス移動中）学生・参加教職員の自己紹介 ※途中、別所岳 SA で休憩
11:00	珠洲サテライト 着
11:00~11:45	学長講義
11:45~13:00	昼食 ランチョンセミナー ・岸岡智也特任助教（先端科学・社会共創推進機構 能登学舎）講義 ・山下貴弘特任助教（教学マネジメントセンター）講義
13:00~14:30	プレゼン・審査・講評 ※途中休憩あり
14:30~15:30	若手職員によるラウンドテーブルトーク
15:30~16:15	珠洲市長講義 （講義終了後）学生のディスカッション
	片付け
16:20~	珠洲サテライト 発 旭町降車（金沢メモリアルホールアネックス側歩道） →若松降車（Vドラッグ杜の里店辺り） ※途中、西山 PA でトイレ休憩
19:00 頃	金沢大学 帰着

「未来デザインプラクティス『水無月（珠洲）』」の成果報告会を開催

6月25日、共通教育科目「未来デザインプラクティス／水無月（珠洲）」が珠洲市で行われ、学生・教職員ら32名が参加しました。この科目は、「自分と未来は変えられる！」をテーマに、令和4年度から新しくスタートしたものです。

自分たちの“未来をデザイン”し、さまざまな背景・専門性を持つ仲間とコミュニケーションを取りながら、その実現に向けて進んでいく、その“プラクティス（練習・実践）”として、学生が参加できるプロジェクトやイベントを企画し提案することを主題としています。

地域での学びの当日は、まず珠洲サテライト到着後、和田隆志学長から、「本・歴史から先人の知恵を学び、想う」と題した講義が行われました。和田学長から直接ご教授いただける貴重な機会に、学生からも積極的に質問や発言が飛び交い、充実した講義となりました。

お昼にはランチョンセミナーとして、岸岡智也特任助教（先端科学・社会共創推進機構 能登学舎）から「能登里山里海 SDGs マイスタープログラムによる能登での人材育成」、山下貴弘特任助教（教学マネジメントセンター）から「自分と未来は変えられる 過去と他者を変える方法」と題した講義がありました。

午後は学生によるプレゼンから始まり、今回は6つの学生グループから「金沢大学の未来を自分たちでデザインしていこう」というテーマに沿って、これまで構想してきた企画の発表がありました。

その後、「若手職員によるラウンドテーブルトーク」では、若手職員からおすすめの本を紹介し、本を通して学生と若手職員の交流が図られました。

最後は、泉谷満寿裕珠洲市長が登壇し、珠洲の魅力高め人口増加を目指す取り組み「珠洲市 まち・ひと・しごと創生総合戦略」について、熱のこもった講義がありました。また今年5月5日に発生した「令和5年奥能登地震」について、「局地激甚災害」に指定されるまでの活動が、泉谷市長の実体験をもとに語られ、学生らは興味深く聴き入っていました。

今後は、学生が企画したプロジェクトをさらにブラッシュアップしながら、その実現に向けて活動を続けていきます。



和田学長による講義



ラウンドテーブルトークの様子



発表する学生ら



珠洲での集合写真

未来デザインプラクティス/水無月 6グループの企画

グループA 実施	グループB	グループC 実施
<p>大学内の“大人”と ザツダンする機会を作りたい! 学生と教職員がちょっと話すイベントの提案</p> <p>心地よい空間でみんな同じ目標で話が飛び交う場 (物理的に精神的にも)</p>	<p>空き教室検索機能</p> <p>電子掲示板</p> <p>「あきけん」</p> <p>金沢大学アプリ に導入</p>	<p>プロジェクトの全体像</p> <p>フォトコンテスト 「輝く」のテーマに沿った、金沢大学に関係のある写真を募集するフォトコンテストを開催する。</p> <p>↓</p> <p>フォトモザイク 写真コンテストで集まった写真を使用して大きな一枚のフォトモザイクを作成し、展示する。</p>
<p>➢ 学生と教職員が同じ目線にたってザツダン形式で意見を交換する交流会を開催する</p>	<p>➢ キャンパス内で使用していない教室を学生たちに開放し、勉強や交流などに活用してもらう</p>	<p>➢ 100年後にも残したいような現在の金沢大学の姿をテーマにフォトコンテストを開催する</p>

3

未来デザインプラクティス/水無月 6グループの企画

グループD	グループE	グループF 実施
<p>金大を“明るく”!!</p> <p>↓</p> <p>物理的な明るさ + 心の明るさ</p>	<p>アイデアソンとは</p> <p>与えられたテーマについて、ブレインストーミングを行い、そのアイデアの優劣を競うもの 「アイデア」と「マツソン」を組み合わせた造語</p> <p>金大では...</p> <p>金大にあるニーズを提示 → グループごとにプレスト → 優秀なアイデアに賞金を与え実行</p>	<p>内容</p> <p>「学食を美味しくせよ」</p> <p>ランチ8店舗めぐり スタンプラリー</p> <p>スタンプを6個以上集めて、特典をもらおう!</p> <p>開催時期：10月後半～11月 (3週間程度)</p>
<p>➢ 冬季期間に、物理的な明るさと心の明るさを目的としたイルミネーションイベントを開催する</p>	<p>➢ イノベーションを起こしやすい環境づくりのためにブレインストーミングをマラソンのように行う</p>	<p>➢ キャンパス内にある学食スペースの認知度を上げるためにスタンプラリーを開催する</p>

4

○能登 7月2日(日)

7:30	参加者集合(金沢大学事務局前玄関・若松・旭町)
7:40~ (学生迎え)	7:40 事務局前出発(大学大型バス) →7:43 若松乗車 (酒のやまや側のバス停付近:Vドラックもりの里店向かい) →7:50 旭町乗車 (ファミリーマート金沢旭町三丁目店側歩道:金沢メリアルホールアネックス向かい) ※途中、別所岳SAでトイレ休憩をとります。 ※参加学生による自己紹介を実施
10:10	能登海洋水産センター 着
10:10~10:40	松原先生による「能登海洋水産センター」施設見学(30分)
10:40~10:55	臨海実験施設へ移動(バス)
10:55~11:05	集合写真撮影
11:05~11:45	鈴木先生による「イカの解剖」講義(解剖実験) @臨海実験施設講義室(30~40分)
11:45~12:55	昼食休憩 兼 乗船体験(船で九十九湾を周遊) ※学生と教職員を2グループに分けて同時に実施
13:00~14:00	自治体講義(~14:00)@臨海実験施設講義室 能登町副町長講義「能登町の取組みと金沢大学との関わり」
14:00~15:00	学生成果発表(各チーム:発表10分)
15:00~15:10	審査(10分間) ※学生は3グループに分かれて臨海の施設見学
15:10~15:20	講評(・表彰)(10分間)
15:20~15:30	休憩(10分間)
15:30~16:00	山下先生による講義
16:00~16:30	学長講義
16:30	臨海実験施設発
19:00 (学生送り)	※途中、西山PAでトイレ休憩 ※若手職員によるランチョンセミナー実施 →旭町降車 →若松降車 →金沢大学事務局前玄関降車

※往復移動中に動画による講義や演習等あり。

「未来デザインプラクティス『文月（能登）』」の成果報告会を開催

7月2日、共通教育科目「未来デザインプラクティス／文月（能登）」が石川県能登町で行われ、学生19名、教職員21名が参加しました。この科目は、「自分と未来は変えられる！」をテーマに、令和4年度からスタートしたものです。

自分たちの“未来をデザイン”し、さまざまな背景・専門性を持つ仲間とコミュニケーションを取りながら、その実現に向けて進んでいく、その“プラクティス（練習・実践）”として、学生が参加できるプロジェクトやイベントを企画し提案することを主題としています。

当日は、まず本学の能登海洋水産センターを訪れ、理工研究域生命理工学系松原創教授の案内で、薬剤を一切使わない「オーガニック養殖」で飼育されたトラフグなどを見学しました。次に臨海実験施設に移動し、環日本海域環境研究センターの鈴木信雄教授による「イカの解剖」と題した講義を受け、実際に解剖をしながらイカの生態について理解を深めました。

午後からは、能登町の田代信夫副町長から講義があり、あばれ祭などの能登町の伝統や特色的な取り組み、町が抱える課題、そして長い歴史を持つ金沢大学との関わりについて学びました。その後、6つの学生グループが「金沢大学の未来を自分たちでデザインしていこう」というテーマに沿って、これまで構想してきた企画を発表しました。

さらに、教学マネジメントセンターの山下貴弘特任助教から「自分と未来は変えられる 過去と他者を変える方法」と題した講義、和田隆志学長から「本・歴史から先人の知恵を学び、想う」と題した講義が行われました。

最後、帰りのバスの中では、若手職員から人生を変えた本について紹介がありました。また、和田学長や山下先生の講義についての質問タイムを設け、学生からも積極的に質問や発言が飛び交う充実した講義となりました。

今後は、学生が企画したプロジェクトをさらにブラッシュアップしながら、その実現に向けて活動を続けていきます。



イカの生態について理解を深める



和田学長による講義



集合写真



能登町田代副町長による講義

グループA



学食メニューの予約制

- メリット① 並ばない
- メリット② 確実に食べられる
- メリット③ 夕食の確保

➢ 昼食時の学食の混雑を緩和してより昼休みを活用できるように学食の予約制を導入する

グループB



- 軽食提供 (夜4.5時間迄)
 - 提供内容: 和にぎり(昼食)
 - 時間: 19時~21時
 - 場所: ブックラウンジ
- FREEドリンク提供
 - 提供内容: コーヒー・紅茶・お茶
 - 時間: 19時~21時
 - 場所: ブックラウンジ
- 図書館クイズ
 - 提供内容: 特に行し
 - 時間: 中央図書館の開放時間内
 - 場所: 中央図書館

➢ 試験前に、図書館での学習を促進するために、軽食やコーヒー・紅茶などを提供する

グループC



この企画はつまり、
食事や勉強、友人との会話などのための
パラソル付きテラス席を制作したい!

➢ 自然に囲まれたキャンパスの外で友達と時間を過ごせるようにパラソル付きテラスを設置する

グループD



地下通路の国際メイクアップ

傘を国旗にリメイク!

プロジェクト概要

国際交流支援団体 (TKISSA) を通じて留学生と一緒に実施希望

地下通路の天井にあるY (アングルラスカイ)

➢ キャンパスをつなぐ地下通路に国旗にリメイクした傘を飾って華やかにする

グループE

実施

大学で模擬留学体験
~留学に踏み出せないあなたと~

留学生寮にホームステイ体験の意義・効果

- 留学に抵抗を感じている日本人学生に模擬留学生生活を体験してもらうことで、留学への不安・懸念点を少しでも取り除く手助けをし、留学を推進する。
- 日本人学生と友達になりたい留学生、留学生と友達になりたい日本人学生に交流の場を提供する。

➢ 実際に海外に留学する前に留学生の部屋にホームステイしてプチ留学を経験する

グループF

優秀賞!



プロジェクト内容

- 学内で行われるイベントを告知するため、食堂などでラジオを流す。
- ミュージック、トークの合間にイベントを告知

➢ 学内で行われるイベントについて学食で告知するためのラジオを配信する

学生レポート

プログラムに参加した学生の素晴らしいレポートを紙面の都合上3人分をここに紹介いたします。(原文のまま掲載)

梶月 (五箇山)

「ペットボトルの使用削減を目指したマイボトルプロジェクト」

人間社会学域経済学類 1年 南雲 歩

(1) 企画したプロジェクト内容

水分補給するとき、皆さんの手にマイボトルは握られているだろうか？ペットボトルは握られていないだろうか？金沢大生対象の調査で、4割の学生はマイボトルを使っていないことがわかっている。金沢大学では1日約500本のペットボトルが購入されている。ペットボトルの原料である石油は化石燃料であり、将来枯渇することが知られている。そのペットボトルはリサイクル技術が発達しているが、約6割しかリサイクルできない。ここでマイボトルに注目したい。マイボトルも石油で作られているものもあるが、誇張したいのは使い捨て容器ではないという点である。マイボトルは、洗浄など適切な管理がされれば、安全に何度でも使用可能である。このことに注目して、金沢大学で「マイボトル WEEK」を企画・実装した。金沢大学角間キャンパス中央図書館内にあるほん和カフェ。様と協力して、マイボトル使用者にドリンク100円引きのサービスを実施した。2023年7月24日から28日に行い、計341杯の利用があった。事前にチームで動画やポスター、チラシにて広報に取り組んだ。マイボトル利用は企画期間の前後の1週間と比較して、前からは15倍、後からは6倍の増加となった。結果として企画をとおしてマイボトル使用を2倍増加させることが出来た。またほん和カフェ様の利用者も200人ほど増加し、売り上げにも貢献できたと考える。使用者アンケートでは、企画の継続を求める声もある一方で、洗浄等に関する問題提起の声もあがった。マイボトル使用はコンビニ等ではできず、日常使いはできないかもしれないが、日常にしないでならない。変化はすることは難しいが、大きな意味をもつ。だから、今後もマイボトルの使用を継続するとともに、その啓発活動になるようなことを続けたい。「マイボトル WEEK」がマイボトル使用が当たり前になる未来の礎になることを心から望む。さて、皆さんの手にはマイボトルが握られているだろうか。いや、マイボトルが握られている。

(2) プロジェクトを準備・実施する過程で学んだこと・気づいたこと

協働することを学んだ。プロジェクトメンバーには元からの友人はいない。県外進学の大生では当たり前かもしれないが、知り合いがいない状況から学類も違う仲間と取り組んだ。共通の目的をもって、互いに持ち合わせているものを掛け合わせて役割を分担した。発表ではチーム全体の発表をそれぞれの眼鏡で見て考え、ペットボトルのリサイクル率などの役立つ情報にたどり着くことが出来た。これが、たった1ヶ月でかなう協働だった。会社ではもっと長い付き合いになるかもしれない仲間とどんなプロジェクトを成し遂げることが出来るのか、非常に楽しみに感じた。

(3) 本講義を通して感じたこと・成長したと思えること

学びの分野を越えてかかわるというのは、社会では当たり前である。生い立ちから何から、まったく異なる人が社会のために活動している。本講義にてその疑似体験をして、自分の足りないものを仲間の中に見つけ、それを仲間に頼って補った。僕の成長はこの仲間と何かしようとしたという行動にある。いままでだれも信用していないかのような行動ばかりとってきた。本講義ではできないことを助けてもらい、自分も仲間のために精一杯活動した。結局一人で何かしているような過去の自分とは異なる。やはり協働の上で、自分のできることと仲間のできることが違うことを認識し、そのうえで共通の目標に向けて行動する必要がある。一人だからできないこともするようなことはない。チームとして互いに認め合い、チームの成功のためにできることをできたと思う。この意識に僕は成長を感じている。

「金沢大学の多様性を可視化し、出会い・繋がる みるみるグローバルプロジェクト」

人間社会学域経済学類 4年 九曜 慶子
融合学域先導学類 1年 松尾 俊来
総合教育部理系 1年 馬淵 璃裕奈

（1）企画したプロジェクト内容

私たちは、学類・学年が異なる3人のメンバーで構成されたグループです。金沢大学の多様性・国際性を可視化し、多くの人との出会いや繋がりを増やしたいという思いから、「みるみるグローバルプロジェクト（通称：みるプロ）」を企画しました。金沢大学は国際交流が盛んで多様な学生が集まる大学ですが、実際にどのような経験・考えを持っている学生がいるのかが分かりづらい、繋がりを持ちにくい、国際交流イベントに行かないと分からないといった課題を感じており、私たちは、もっと身近に国際性を感じられるようにしたいと考えました。

「みるみるグローバルプロジェクト」には、「見る」と「みるみる」という2つの意味が込められています。具体的には、①世界地図で金沢大学の国際性・多様性を見る見える化すること、②皆の夢や考えを見ることで自分の将来を見つめるきっかけ作り、③みるみるうちに金大生がグローバルになっていく、という3点からこの名称にしました。

具体的な企画内容は、大きな世界地図の中で「出身地」「行ったことのある国」「行きたい国」に色別にシールを貼ってもらい、模造紙で製作した掲示板に「Before I die」という死ぬまでにやりたいことや夢を自由に描いてもらうものです。文系・理系の壁を越えて交流してもらうため、7月～11月の5か月間で、中央図書館→自然研→総合教育棟→OKUOKU→中央図書館の順に場所を移動して設置しました。そして、自分たちで作成したオープンチャットや他チーム考案の「金大ラジオ」、学生向けメールや金沢大学公式 Instagram を通して、企画の広報も行いました。結果として、「Before I die」の掲示板3枚分が金沢大学生のやりたいことや夢で埋まるほど、多くの方にご参加いただきました。

（2）プロジェクトを準備・実施する過程で学んだこと・気づいたこと

みるプロを通して学んだことは大きく分けて三つあります。一つ目は、表現の場の重要性です。出身地や行ったことのある場所、行きたい場所、死ぬまでに叶えたい夢を表現する場をつくったことで普段隠れていた金沢大学にいる人々の多様性を可視化することができました。これにより展示を見た人も多様に触れることができ、視野が広がる機会となったと考えます。また、ボードの中には日本語以外の複数の言語での書き込みが見られたり、そういったボードの前で会話が生まれたりする様子も見ることができました。このことから金大の国際性を実感できる交流の場としての役割も果たしていると実感しました。

二つ目は、チームとしてのプロジェクトの進め方です。今回のプロジェクトは学部学年の違う学生および職員の方とチームを組んで実行してきました。その中で、スケジュール調整のやり方であったり、連絡の仕方、資料の共有の仕方、リマインドの仕方、プレゼンの仕方、仕事の役割分担の仕方などを他のメンバーの活動の様子や職員の方、先生方のアドバイスから学ぶことができました。

三つ目は、大学の「組織」という面についてです。同じグループになった大学職員の方のお話を聞いたり、設置場所によって異なる所属の職員の方々にご協力いただいたりしたことで、通常の大学生活を送っていると知ることができないであろう、大学の側面や組織構造を少し知ることができて興味深かったです。

（3）本講義を通して感じたこと・成長したと思えること

授業開始当初は、あまりアイデアが浮かばずに職員の方に主導していただいていたのですが、みるプロを本格的に進めるにつれて、授業外で何度かプロジェクトに携わった経験を活かしながら、グループメンバーに日程調整や役割分担などを提案したり、リマインドをしたり、といったチームをまとめて推し進める力を少し身に付けることができたと思います。加えて、一人ひとりの強みを活かしながらも、それぞれのメンバーが不足する知識や経験などを補いながら、共に学び活動できることが大切だと認識することができました。

また、大学の様々な職員の方々と協力ののもと、学生が主導で企画から広報までこなせることを実感し、学生である自分たちが中心となって何かを始める際のハードルが下がったように感じました。プロジェクトの結果として、予想以上に多くの学生が自分たちの企画したプロジェクトに参加してくれたことで達成感を感じるとともに少し自信もつきました。より多くの学生が、このような普段は気づくことが難しい自分たちのエネルギーや潜在能力に気づける機会があれば良いと考えています。

最後に、五箇山で行われた発表会では、大学の外に出て地域について学ぶとともに学長とお話できる機会があり、非常に有意義で充実した時間を過ごすことができました。

文月（能登）

『“知らなかった”をなくしたい!』から生まれた金大ラジオ」

理工学域物質化学類	2年	櫻井 七海
人間社会学類経済学類	1年	高田 茂々香
理工学類電子情報通信学類	3年	谷口 博紀
人間社会学域人文学類	3年	中田 朋希

(1) 企画したプロジェクトの内容

私たちのグループは、文系と理系の学生2人ずつと、施設部の職員メンターの方を含めた5人で構成されています。このプロジェクトでは、金沢大学のイベント告知を推進することを目的としました。金沢大学では多くのイベントが開催されているにもかかわらず、知られていないことが多いという問題に着目しました。そこで、通常の視覚的な情報伝達手段である「アカンサスポータル」ではなく、「ラジオ」という聴覚に訴える方法でイベントを告知することを企画しました。この企画を進める中で、過去に大学の食堂でお昼に放送を行っていた団体があることを知り、その団体（金沢大学放送局 web-KURS）と協力し、食堂2カ所での学内放送を復活させました。そして、応募のあったイベントの告知を行うことに成功しました。

(2) プロジェクトを準備・実施する過程で学んだこと・気づいたこと

この金大ラジオプロジェクトを通して、私たちは多くの貴重な経験と教訓を得ました。プロジェクトを形にするためには、金沢大学放送局のような他の団体や施設部の方々、生協の方々など多くの人たちの協力が不可欠でした。この経験から、一人では不可能なことも、周りの協力を借りることで実現可能となるということを学びました。また、異なる専門分野や学年のメンバーとの協働は、意見交換とアイデアの共有において非常に重要であることを実感しました。プロジェクトを進める中では、時には困難に直面しましたが、粘り強い思考とポジティブな姿勢でそれを乗り越えることができました。イベントの応募が思うように来ない時には、問題解決のために積極的に会議を重ね、状況を改善することで成果を上げることができました。これらの経験から、企画の進行において改善を続けること、そして多くの方々の協力を得るためには計画をしっかりと練り、課題を解決していく必要があることを学びました。プロジェクトを形にするものの困難さと、費用や技術の面も考慮しながら現実的な案を立てることの重要性も痛感しました。これらの経験を通じて、私たちはアイデアを思いっただけでなく、それを現実に落とし込むためのスキルを身につけました。

(3) 本講義を通して感じたこと・成長したと思えること

このラジオプロジェクトにおいて、様々な学年や専門分野のメンバーと共に活動し実際に形にする経験をとおして、あらためて、困難な課題を解決するためには、多様なバックグラウンドをもつ人々との連携・協力が重要であるということを深く理解しました。私たちにとって、大学全体を巻き込んだこのような大きなプロジェクトへのチャレンジは、それまでの自分にはなかった経験でしたが、実際に挑戦してみると、自分にも「意外とできる」ことに気づき、これまで躊躇していたチャレンジも可能に感じるようになりました。このプロジェクトを通じて、私たちは自分自身の可能性を発見し、新たな挑戦に対する自信を得ることができました。

未来デザインプラクティスアンケート調査

【設問①】 この授業を受けた現時点において、以下の項目について自己評価を行ってください。

事前学習	4 積極的に取り組めた 3 それなりに取り組めた 2 どちらとも言えない 1 深く関われなかった
諸活動	4 積極的に取り組めた 3 それなりに取り組めた 2 どちらとも言えない 1 深く関われなかった
受講生の交流	4 積極的に交流できた 3 それなりに交流できた 2 どちらとも言えない 1 交流できなかった

【設問②】 一番記憶に残っている活動は何ですか？

五箇山

- | | | | |
|-------------------|---------|----------|----------------------|
| 1 学長講義 | 2 自治体講義 | 3 担当教員講義 | 4 五箇山のくらし ・見学 (民宿勇助) |
| 5 ささら編み体験 (こきりこ館) | | | |

珠洲

- | | | | |
|-------------------|---------|----------|--------------|
| 1 学長講義 | 2 自治体講義 | 3 担当教員講義 | 4 能登学舎担当教員講義 |
| 5 若手職員によるラウンドテーブル | | | |

能登

- | | | | |
|---------|---------------|----------|------------------|
| 1 学長講義 | 2 自治体講義 | 3 担当教員講義 | 4 能登海洋水産センター施設見学 |
| 5 イカの解剖 | 6 乗船体験 (九十九湾) | | |

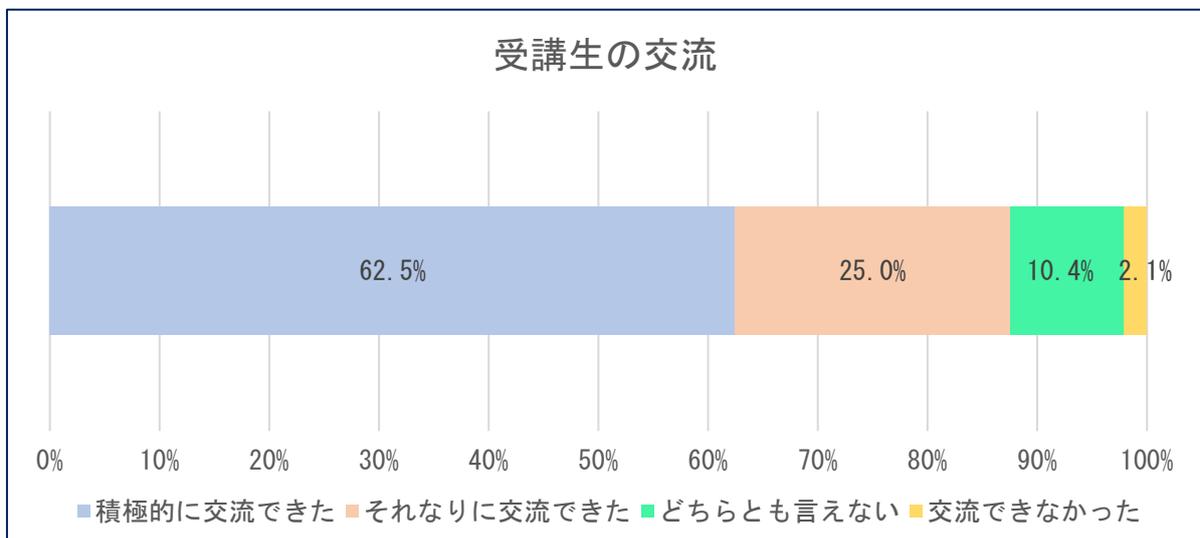
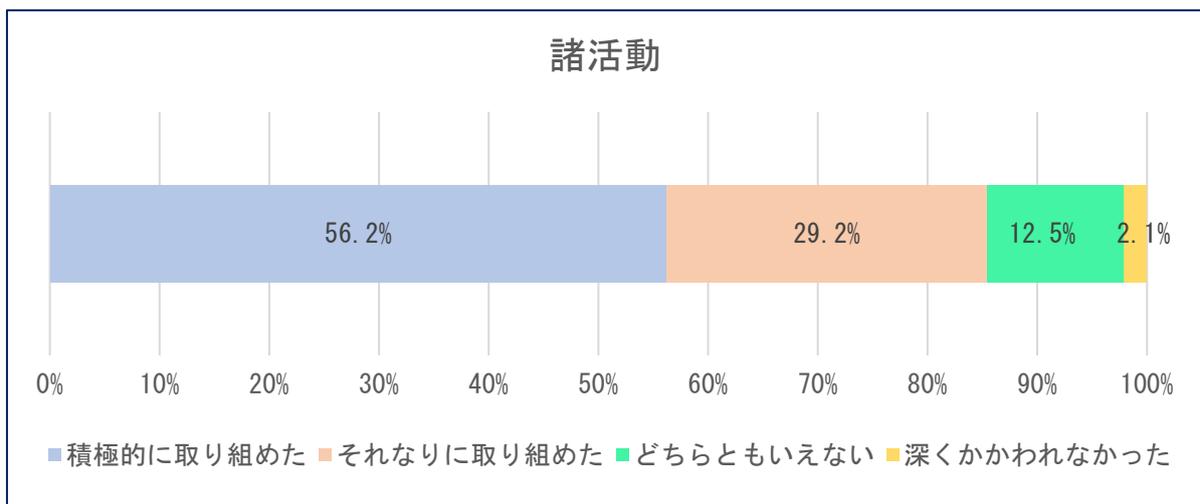
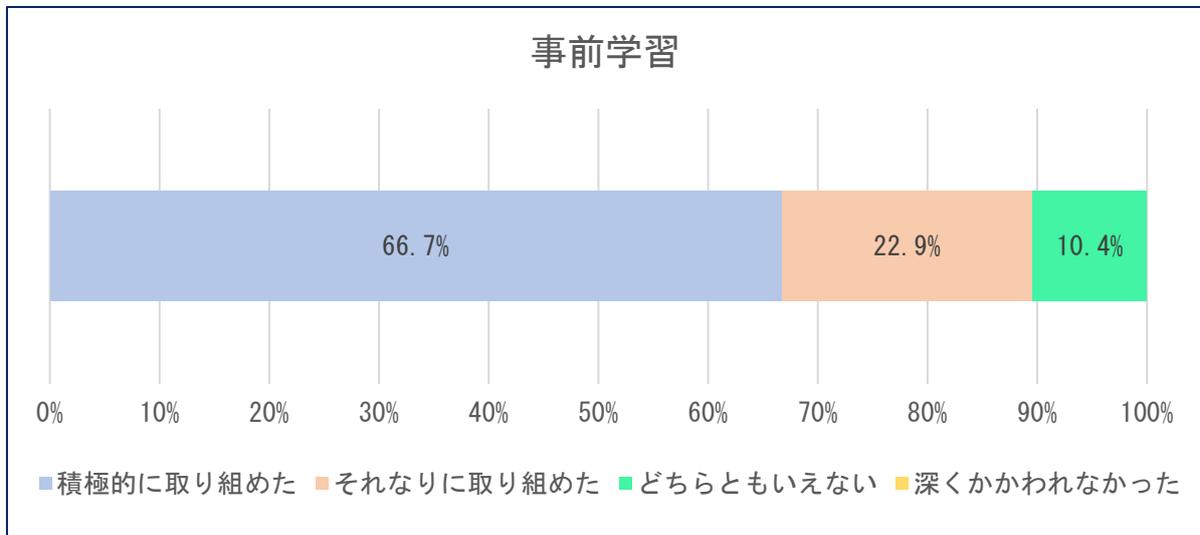
【設問3】 ①～⑤の能力について、受講前を0とした場合の、受講後に感じる各自の成長度を選択してください。

内容		受講前	成長度1	成長度2	成長度3	成長度4	成長度5
①自己認識 発信力	自分が持つ能力や資質を理解し、課題解決に向け、適切に他者への協力を呼びかける力	0	1	2	3	4	5
②協調性 傾聴力	考えや価値観が異なる他者とコミュニケーションし、建設的に自らの思考に採り入れることができる力	0	1	2	3	4	5
③責任感 調整力	克服すべき課題を他者と協調して成し遂げるため、自分の責務と役割を理解できる能力	0	1	2	3	4	5
④規律性 倫理観	規範意識を持ち、計画に沿って、チームの中で適切な行動を取ることができる能力	0	1	2	3	4	5
⑤判断力 課題認識	自らが置かれた社会環境等を理解し、適切な貢献を果たすべく行動できる力	0	1	2	3	4	5

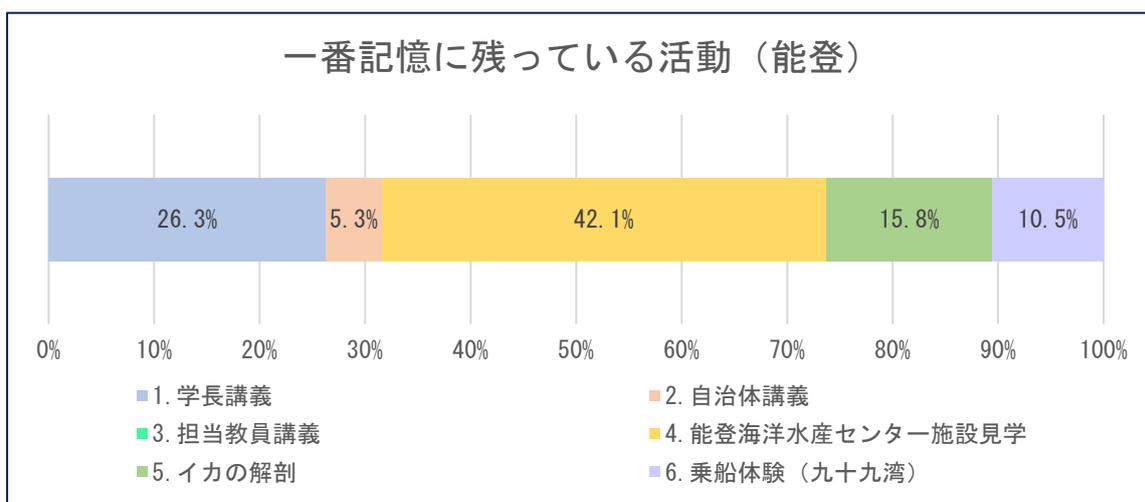
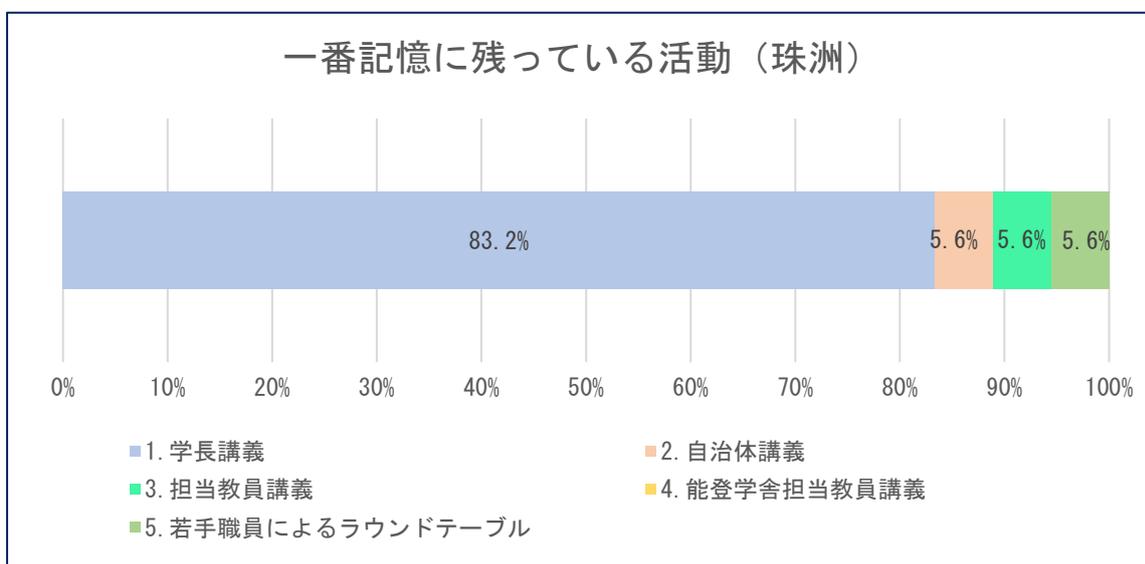
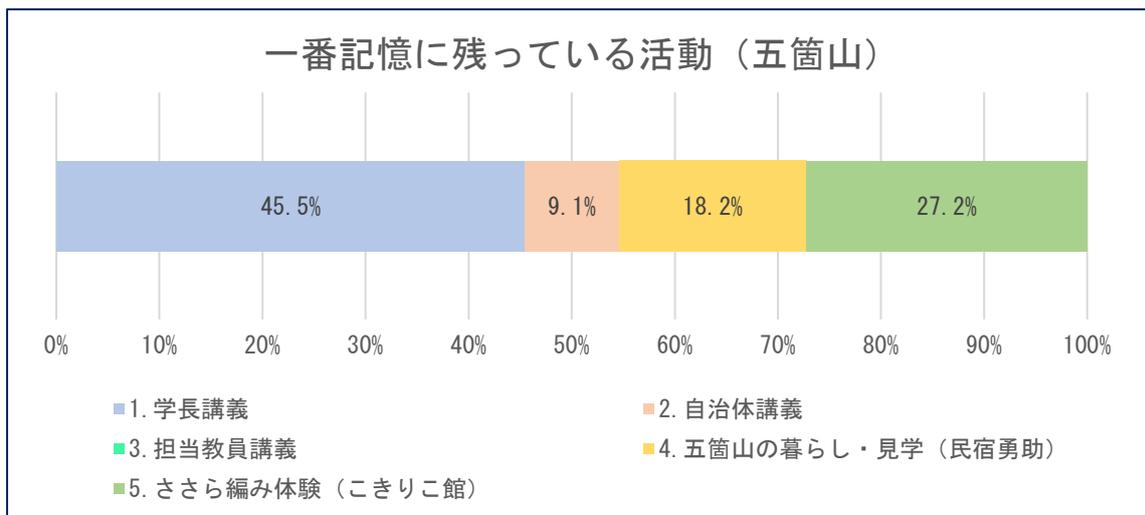
【設問4】 この授業を履修して、最も強く心に感じたことを一言で記述してください。

アンケート集計結果

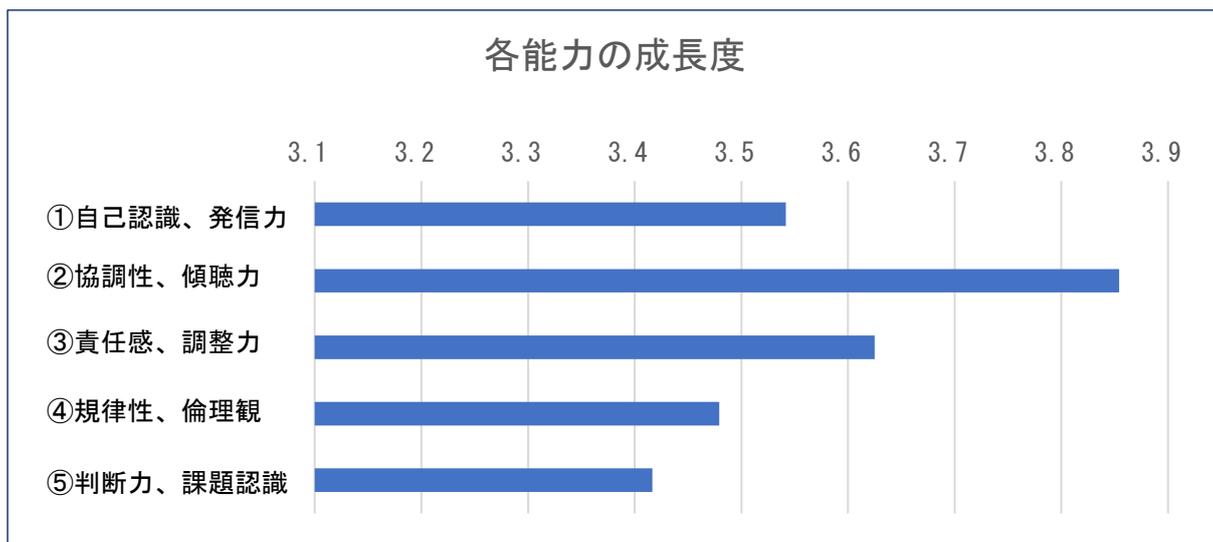
【設問1】 この授業を受けた現時点において、以下の項目について自己評価を行ってください。



【設問2】一番記憶に残っている活動は何ですか？



【設問3】①～⑤の能力について、受講前を0とした場合の、受講後に感じる各自の成長度を
選択してください。



【設問4】この授業を履修して、最も強く心に感じたことを一言で記述してください。
(数例のみ原文のまま記載)

五箇山

・これだけ短期間でこれだけしっかりとしたプロジェクトに参加したのは初めてだったのでよかったです。今までは間延びした準備でやってきたけれど、今回のように初対面の仲間と協力して進められたことは良い経験になりました。

・高校でも、予算をつけてもらって、実行とまではいかずとも企画まではやったことがありました。しかし実際に実行するために動いてみる段階もとてもやりがいがあると感じました。プレゼンテーションをする際に準備をしきれなかったこともあって、簡潔かつちゃんと伝えるよう話せなかったところが、自分の今後の課題だと気づかされました。

・時間内で最大のパフォーマンスを出すために、タイムマネジメント、スピリットマネジメントをできなかったことが残念でした。しかし、チームとして動くところで協調して行う力が身についたのは良かったと思う。精神の甘さを克服します。

・普段、グループワークをしているメンバーとは違う人たちだったので、自分がファシリテーターをするのが難しいことも多かったです。自分たちで考えたアイデアだからこそ責任感を持ちやすいですが、グループで意見をブラッシュアップすると、とがった意見が丸くなってしまふことは少し課題だと思いました。

・自分自身を鍛え、能力を高めるために、応募もしくは参加するだけで終わることなく、グループワークにしっかり入り、自分のやるべき役割を果たす必要があると実感している。

・強く心に思ったことは、地域に出て、自分の足で経験しに行って地域を知ることや、自分の学類・学年とは異なる多様な学生・大人の方々と出会うことで自分の視野が広がり、充実した時間を過ごすことができる、ということである。今後の課題としては、チームメンバーとの距離感をもう少し詰めて、交流を深めてより積極的なコミュニケーションを心がけようと思った。

珠洲

・自分がこれからの大学生活の中で何をしたいのかを、考えてそして気付くことができる授業でした。本当に貴重な経験です。授業履修前は何事にもやる気がなくて、大学にも行きたくないと思っていました。でも珠洲に行った時に、自分は言葉で自分の考えを表現するのが好きで、またそれをもっと伸ばしたいということに気が付くことができました。また、自分の話したことにリアクションをもらえることが、こんなにも嬉しいことなのだと思えました。佐藤先生の熱い思いで、変わる学生がたくさんいると思います。来年度以降も、ぜひたくさん学生の学生にこの講義に参加してほしいです。

・アイデアを立案し、その実現化に向けて行動する。このような授業に私は今回初めて参加したので、得ることのできた知見は多かった。特に、「私たちの力でも大学は変えられる」と実感できたのが一番の収穫であった。換言すれば、大学という「社会」は、我々学生、すなわち「市民」の行動によって如何様にも変貌させることができる。我々にはその素質があることを、強く実感した。

・初めて会う人たちと企画していくことについて、最初はとても不安だったが、すぐに打ち解けて自分の考えも遠慮せずに言えた。すぐに仲良くなれたのはグループの子が話をふってくれたり笑顔で聞いてくれていたからだと思うので、今後のグループ活動ではそれらを意識したい。

・珠洲に向かうバスでの自己紹介のときに感じたのですが、この授業に参加している学生の方は、大学で学びたいことや将来のビジョンが明確な人がとても多く、それに影響されて自分の大学生活のモチベーションが向上しました。今後の課題としては、プレゼンなど自分の考えを他人に分かりやすく伝える力をつけていきたいです。

・短い限られた時間の中で、伝えたいことを端的に分かりやすく伝えられるようになりたい。仲間のなかで、話し合いをするときは別に、大勢の前で、もっと伝わるプレゼンができるようになりたい。同じことをやっても、人によって考えることが全然違うのが、本当に面白かった。

・アイデアを企画して実行するプロジェクトに参加したのは、恐らく初めてだと思う。そのため、自分に足りていない部分を知ることができた。特に、何が正解か分からない中で、自分の考えをしっかりと伝えるということができていないと思った。グループで取り組む際に、自分はどう動けば良いのか、意見が活発に出る話し合いにするためにはどうしたらよいのか、色々考えさせられた。

・他学類の人と交流することで、新たな知識や考え方を得ることができました。私は、時間管理があまりうまくできていなくて、締め切りぎりぎりであせることが多くあったので改善したい。

能登

・自分だけが積極的に話したり、疑問点を挙げたり方針を決めたりしていると感じ、1年生たちは自分が2年生故に意見しづらいついていたのだろうかと思っていたのだからと懸念が残る。もっとアクティブに話してもらったり心を開いてもらうためにどうすればよかったのか、積極的に意見を聞く、雑談を振ってみる以外で何をすればよかったのか、自分でも解決できなかった点であるため、授業後も考えていきたい。留学生との交流がない点は今後一緒に取り組んでみても面白いと思った。ただ、その場合コミュニケーションにより多くの時間を使うため、報告会や実施まではより長い時間を取る必要があると思う。

・高校の頃から僕はプレゼンが苦手な人前で話すことさえ恥ずかしくて無理だったので、今回の能登でのプレゼンを通して、決して周りからはうまくできたと思われていなかったとしても、自分では高校の頃からかなり成長したと思う。これからもこのような経験を積んでいくことで苦手を克服したい。

・なかなか意見を集め、みんなで発表し、実際にプロジェクトを行っていくことは、とても難しいと思いました。もうすこし、自分は全体を見る能力が必要であると改めて感じることができました。

・金沢大学の良いところも課題をよく知れる機会となりました。他学類の人たちとはやはりどこか視点が異なっていて、そのことに気づけたことも大きな成果のように思います。プレゼン本番は上手にできなかったのも、大学生のうちにこの苦手を克服したいです。

・他の学域の専攻が全く異なる人と協働してプロジェクトを考えることができたことが自分の中では最大の収穫だった。プロジェクトを考えるだけでなく、実行に移すので、単に学校を良くするプロジェクトを考える以外にも、予算や安全面など現実的な視点からプロジェクトを計画できたのが新鮮だった。

・プロジェクトが行き詰まったときに、どう切り抜けるか、ということに対して考えさせられ、今から社会に出ていこうとする3年生の自分として、とても有意義な授業だったなと思いました。

・やりたいと思って履修している人が多いので、中途半端な参加でなくて、企画を実施しようとみんなで協力できたことが良かった。学長の話や帰りのバスでの話から本を読みたいと思った。

ご協力いただいた皆様

- 各自治体（南砺市、珠洲市、能登町）の皆様
- 五箇山 相倉合掌造り集落の皆様
- タカンボースキー場の皆様
- 金沢大学臨海実験施設及び能登海洋水産センター教職員各位
- 金沢大学講義担当教員各位

○スタッフ（所属・役職等は、実施当時のものです。）

【総責任者・主宰】

和田 隆志 学長

【総括】

塩川 達大 理事（総務・財務・施設担当）／副学長／事務局長
佐藤 智哉 国際機構 准教授
安田 純子 学務部学生支援課 課長（調整補助 五箇山・能登担当）
小幡 陽子 学務部学生支援課 副課長（調整補助 珠洲担当）

【五箇山担当】

山下 貴弘 教学マネジメントセンター 特任助教
中村 俊晃 学務部基幹教育支援課 課長
竹多 俊貴 企画評価室 一般職員
石野 貴也 施設部宝町施設支援室設備係 技術主任
中内香菜子 学務部学務課学務企画係 一般職員
林 俊介 学務部学生支援課キャリア支援係 一般職員
中村美由紀 国際部国際企画課国際化推進係 主任
石過 桃子 情報部情報企画課図書情報係 図書職員
富田 洋 情報部情報推進課 主任

【珠洲担当】

山下 貴弘 教学マネジメントセンター 特任助教
岸岡 智也 先端科学・社会共創推進機構（能登学舎） 特任助教
小俣 明美 医薬保健系事務部学生課 課長
佐々木椎奈 財務部財務企画課予算係 一般職員
影山 丈士 研究・社会共創推進部研究推進課学術研究推進係 主任
村上 優紀 研究・社会共創推進部研究推進課研究推進総務係 一般職員
荒井 創 融合系事務部総務課企画総務係 一般職員
米澤 諒哉 医薬保健系事務部保健学支援課保健学務係 一般職員
山田 茜 病院部医事課 専門職員
井田 千尋 医薬保健系事務部学生課医学学務係 一般職員
野村 唯奈 医薬保健系事務部薬学・がん研支援課薬学学務係 一般職員

【能登担当】

鈴木 信雄	環日本海域環境研究センター 教授
松原 創	理工研究域生命理工学系 教授
関口 俊男	環日本海域環境研究センター 准教授
木谷洋一郎	環日本海域環境研究センター 准教授
豊田 賢治	環日本海域環境研究センター 特任助教
山下 貴弘	教学マネジメントセンター 特任助教
小木曾正造	環日本海域環境研究センター 技術専門職員
曾良美智子	環日本海域環境研究センター 事務補佐員
岩崎紀美枝	理工系事務部学生課長 課長
熊倉 百葉	総務部職員課福利厚生係 一般職員
東 咲貴子	財務部財務管理課調達管理係 一般職員
五十川幸子	施設部施設管理課建築係 技術職員
山本 夏未	国際部留学企画課留学支援係 一般職員
浦山菜々子	人間社会系事務部総務課人事係 一般職員
八田 裕司	理工系事務部学生課入試係 一般職員
岩崎 幹太	理工系事務部学生課大学院係 一般職員

【自動車運転】

坂田 晋良	総務部 総務課総務係 (五箇山・珠洲)
篠田 清	総務部 総務課総務係 (能登)



【問合せ先】金沢大学学務部学生支援課

〒920-1192 石川県金沢市角間町

h_resilience@adm.kanazawa-u.ac.jp

令和6（2024）年3月 発行：金沢大学 編集：金沢大学学務部

無断転載・複製を禁じます。